

令和 7 年国勢調査有識者会議 企画ワーキンググループ会合（第 2 回） 議事要旨

1 日 時 令和 6 年 2 月 16 日（金）10：00～12：00

2 場 所 総務省第二庁舎 6 階特別会議室

3 出席者

構成員：會田雅人委員、加藤久和委員、玄田有史委員、佐藤香委員、菅幹雄委員、津谷典子委員（會田雅人委員及び菅幹雄委員は欠席）

総務省：中村国勢統計課長、齊藤国勢統計課調査官、渡邊企画担当課長補佐、吉田指導担当課長補佐、宮下審査担当課長補佐、濱口統計専門官 ほか

4 議 題

- (1) 令和 7 年国勢調査第 3 次試験調査について
- (2) 令和 7 年国勢調査について
- (3) 令和 7 年国勢調査の集計における不詳補完について
- (4) その他

5 配布資料

資料 1 令和 7 年国勢調査第 3 次試験調査の概要（案）

（参考） 令和 7 年国勢調査第 3 次試験調査 実施計画（案）

資料 2 令和 7 年国勢調査の概要（案）

資料 3 令和 7 年国勢調査における CANCEIS 補完の実装に向けて

（参考） 令和 7 年国勢調査における CANCEIS 補完の実装に向けて（参考資料）

参考 1－1 令和 7 年国勢調査の実施までの検討スケジュール

参考 1－2 令和 7 年国勢調査有識者会議 開催スケジュール

参考 2 令和 7 年国勢調査有識者会議企画 WG（第 1 回）議事要旨

6 議事要旨

- 事務局から資料に沿って説明した後、意見交換が行われた。主なやりとりは、以下のとおり。

（議題 2：令和 7 年国勢調査について）

- 公的統計の整備に関する基本的な計画（第Ⅳ期）では、「基幹統計調査における回答数に占めるオンラインによる回答数の割合を、世帯系調査では 5 割以上を目指す」とされており、令和 7 年国勢調査では前回調査から相当大きくオンライン回答率を向上させる必要がある。オンライン回答の推進のため、調査員や地方公共団体への細かな気配りをお願いしたい。
- ⇒ 地方公共団体とこれまで以上に連携を密にして取り組んでまいりたい。

(議題3：令和7年国勢調査の集計における不詳補完について)

- 「モジュール」という用語は一般的ではないため説明が必要である。CANCEISの中身をどこまで説明できるかが課題ではないか。
 - ⇒ モジュールの説明については、都道府県別に設定しているため都道府県別モジュールとして、CANCEISを動かすためにあらかじめ設定しておく必要のある変数や距離関数などが記入されている。

- 研究者にとって重要なのは、CANCEISは全ての情報を個票レベルで補完しているため、これまでの比例あん分による補完と異なり、集計しても矛盾が出ないという利点があることである。とはいえ、CANCEISはマンパワーと時間をかけて実施する作業であり、補完されたデータができる限り広く利活用されるようつとめることが肝要である。CANCEISの利点について、一般ユーザーに分かりやすく説明するよう留意してほしい。特に、年齢、国籍、配偶関係は不詳の多い項目である。年齢は最も基本的な属性であるにもかかわらず不詳が多く、補完は不可欠である。国籍についても、日本人と外国人に分けて集計するため、補完が重要である。将来人口推計によると、人口が減少する中で外国人人口は今後増えていくと予想され、国籍の不詳の補完は政策的にもさらに重要になると思料する。今回の補完作業は例示のためであると思うが、CANCEIS補完を全面的に実施すると、データ処理にどれぐらい時間がかかると思われるのか。
 - ⇒ コンピューターの性能にもよるが、我々が職場で使用している通常のパソコンでは、大きい都道府県の処理には1日程度かかっている。そのため、検証のために全都道府県で実行するのは非常に労力がかかるものであり、より効率的に検証を行う方法を検討する必要がある。
 - ⇒ CANCEISを御理解いただくために、丁寧で確実な説明をしていくことが非常に大切になると思料。

- 令和2年国勢調査では国籍不詳が増加していたが、具体的な不詳のあん分の仕方が分からず、再現性がないため、研究者の間で問題になった。

事前補完とCANCEISで国籍の補完をすれば、妥当性の高い試算結果が算出できそうである。特に、国籍、年齢、配偶関係という重要な変数については、補完された数値が必要になる。今回の試算では令和2年国勢調査データのためのモジュールを作成したようだが、令和7年国勢調査の際には在留外国人データを令和7年のものにするなど、モジュールも年によって多少変わると考えられるため、毎回その変更に変大な手間がかかると思われる。令和2年国勢調査用モジュールをどのように令和7年用に変えれば良いのか、変える必要があるのかということも含めて、作業を進めていただけたらと思う。また、使用した外部データについてはきちんと記録に残して公表する必要がある。作業は大変になると思うが、個票レベルでの補完は二次利用においても重要であるため、あん分とは異なるという点を公表時に強調して説明していただきたい。さらに、本日説明されたようなCANCEISによる補完結果の作成方法に沿って実際に作業が行われていることが分かるような資料を作成していただきたい。

 - ⇒ 可能な限り、その辺りが分かる資料を作成してまいりたい。

○ CANCEIS補完による結果の公表は、これまでの努力が結実した結果だと思っている。今後のことを考えると、CANCEIS適用の背景について、紙ではなく可能であれば動画のような形で説明できると良いのではないか。インピューテーションの文化が日本にはないため、なぜやるのか、どうしてやるのか、といったことも踏まえながら、丁寧に説明していくことが必要である。

小地域集計については、どの程度までできるものなのか。

⇒ 小地域集計の結果については、今回の資料にはないが、検討を行っているところである。

○ 不詳補完値とCANCEISの一致が高いことは非常に良いことだが、考え方によっては、従来の補完方法で良いのではないのかと言われかねない。多重クロス集計や多変量解析において、CANCEISによる補完データを研究者に使ってもらうことで、その有用性を実感してもらえと思料。中でも、調査票の裏面の項目における一致性の高さは特筆され、就業に関する項目で一致率が9割を超えているのは素晴らしい。様々な分野において、こういったデータの有用性は高いと思料。ただ、データの値が小さい場合の取扱いについては、慎重に対応する必要がある。例えば、10代後半の有配偶者や超高齢の未婚者などの取扱いなどについては、何らかの基準を設けるか、グルーピングするかなど、注意が必要ではないか。

今後の検討課題として、CANCEISで補完できない場合が出てくるであろうとのことだが、このような場合には、無理に補完しようとするべきではないと考える。しかし、どういう場合に、どのような属性について補完できなかったのかがある程度判明するようであれば、記録に残しておいてほしい。国勢調査情報のCANCEIS補完のためにアルゴリズムを組んで、補完方法をブラッシュアップしていくことが必要である。

○ 100歳以上の配偶関係が一致しないのは、仕方のないことである。元のデータが少ないため、95歳以上の配偶関係は補完しないといった方法もあるかもしれないが、細かい操作をして現状でとても良い数字を求めると後々苦勞するため、数が小さい部分では一致しないということを前提にして、ルールは一定にしておいた方がよい。

○ 抽出詳細集計については、サンプリングしたものでCANCEIS補完をするということであればドナー候補が減るため、あまり好ましくないのではないか。

埼玉県から大島町への通勤のようなレアケースについても補完ができたというのは、CANCEIS補完を47都道府県に適用できたからこそ分かったことであり、許容できるサンプルサイズについて検討いただきたい。

⇒ 抽出詳細集計にもCANCEISを適用した方が良いとおっしゃる方もいるかもしれないので、よく検討したい。

○ 令和2年国勢調査のデータも二次利用できるように手続を進めてもらえるとありがたい。

⇒ 二次利用も含め、公表や提供の仕方については十分な検討が必要であるため、引き続き検討してまいりたい。

⇒ 利用者の利便性などを含め、できる限り良い形となるよう、引き続き検討してまいりたい。

○ CANCEISを実際に国勢調査に適用する際には、なぜCANCEISを実行するのかを強調していただきたい。不詳の増加の問題があり、単なるあん分だと整合性が取れないという問題もあるので、一般に御理解いただけるような説明をお願いしたい。

不詳補完値との一致率については、真の値が分からないので、あまりこだわらなくても良いのではないかと考える。

CANCEIS補完値を前面に出して公表し、従来の公表値は公表をやめるのか、それとも従来の公表値を出して、参考値としてCANCEIS補完値を公表するのか。個人的にはCANCEIS補完値を前面に出して公表しても良いのではないかと考える。

⇒ 公表についてはいくつか考え方があり、正式系列としてCANCEIS補完値を出すのか、それとも参考値としてCANCEIS補完値を出すのか。我々としては、正式系列としてCANCEIS補完値を出したい一方で、過去の原数値と断層が生じることになるため、その対応として、CANCEIS補完を実行した遡及値も公表していく必要があるか、といった点にも十分注意しながら、皆様の御意見を伺いながら、引き続き検討してまいりたい。

○ 不詳に関する情報は、ある意味現実を反映したものであり、できれば公表すべきではないか。一方、今までの方法による補完値とCANCEISによる補完値の両方を出すのかについては、補完はマンパワーと時間のかかる大変な作業であり、費用対効果を考えて決定する必要があると思料。令和2年国勢調査については、原数値、不詳補完値、CANCEIS補完値の3つが今回示されているので、人口等基本集計についてだけでも、3つの結果を公表した方が良いのではないかと思うが、それ以前の国勢調査については、慎重に検討する必要がある。令和7年国勢調査についても、原数値、不詳補完値、CANCEIS補完値の3つの結果を公表した方が良いのではないかと思うが、統計委員会や総務省政策統括官室とも相談して、検討してはいかがだろうか。

⇒ マンパワー的な問題もあり、どこまでできるか。過去との整合性の確保も必要となるため、何を正式系列と位置付け、どこまで出していくかについて我々の方でも整理をし、政策統括官室とも相談してまいりたい。

以 上

<文責：事務局（今後、修正することがあり得ます。）>